

『広い大地』のように  
心が広く親切的な登別の人

白さんは、中国の天津市国際交流センター国際交流部で、副部長を務め国際交流事業を推進しています。

日本に来るのは今回で4回目の白さんは、過去3回は訪日団の添乗員や通訳などで来日。今回のように長期にわたって滞在するのは初めてだそうです。

「研修で日本に行く事は、期間が長いことから悩みましたが、仕事の面でも、自分自身にとってもすごいチャンスだと思いました。日本の行政などについてしっかりと勉強し、これからの仕事に役立たいです」と話す白さん。

過去3回来日している白さんも北海道に来るのは初めてで、登別のことは、知らなかったそうです。「北海道は『雪』や『広い大地』のイメージがありました。登別の人は『広い大地』のイメージのよいうに心が広く、皆さん親切ですね。天津には温泉がなく、以前日本に来たとき初めて入りました。今回も温泉に、何度か入っていますが、気持ちいいですね。天津では、お風呂ではなくシャワーの習慣のため、少しはずかしいです」と登別に來てからの印象などを話してくれました。



華道を体験する白さん

たくさんのご経験を  
体験できた登別

「今回の来日では、日本の伝統文化である茶道や華道、着物を着たり、かつらを付けたりなど、いろいろなことをたくさん体験でき、日本のことを知る上では、大変参考になりました」と体験談を話す白さん。「登別で一番楽しかったのはお祭りで、いろんなお祭りに参加しました。中でも『登別地獄まつり』は、準備のときからお手伝いをできたので、大変有意義でした。帰国後は、登別で体験したことなどを役立て、登別と天津の交流を推進したいです」と帰国後の抱負などを話してくれた白さんは、11月22日(火)に研修を終え帰国します。



KIRARI

バイ ルーナン  
**白 汝南**さん(天津市)

市は、国際交流事業の一環として、総務省などが行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の天津市から5月23日に来日、6月23日から登別市での研修を始めた白汝南さんに、登別市の印象などを聞きました。

**体験したことを役立て、登別との交流を推進したい**



海河

天津外国語学院



1979年天津市生まれ25歳

天津外国語学院日本語(日本語語言文学)科卒業。現在、天津市国際交流センター国際交流部(国際交流事業推進)に勤める。両親と天津市に居住。